Die Eiche Fr 71~

Japanisch-Deutsche Gesellschaft der Präfektur Chiba 〒274-0822 船橋市飯山満町 2-518-1 清和会第2ワールドナーシングホーム内 電話 047-461-9111 Fax 047-461-7010

先端分野の国際交流

IoT で世の中はどう変わるか シンポジウム「日独仏の現状と課題」に参加して

会長 金谷誠一郎

日本は欧州、特に独、仏と IoT の分野で国際協力を進めている。 (公財) 日仏会館=東京渋谷区恵比寿=で、2月18日開かれたシンポ ジウム「IoT に関する日独仏の現状と課題」~IoT により今後世の中は IoTとは
「Internet of Things」(物のインターネット)の略。これまでは主にパソコン、スマートフォンやサーバー、プリンタ等の IT 関連機器が接続されていたインターネットにそれ以外の様々なモノー例えば、機械、人間の行動、自然現象などーも膨大な情報をセンサーにより数値化して収集し、いろいろな問題を解決しようとする。既に外出先から自宅のドアをロックする、電気を消すなどに活用されるなど様々な機器がインターネットに接続され利便性を向上させている。



どう変わるのか~=写真右下=参加した。(公財) 日独協会と日仏会館共催によるもので、3ヵ国の IoT に係る第一人者がそれぞれ意見や展望を述べた。これからの社会を考えるうえで、多くの興味深い話しがあったので報告する。 IoT とは、は別稿を参照いただきたい。モノとインターネットを物理的に接続する手段としては有線と無線がある。IoT では無線でなくては実現困難な場合が多数あり、無線には WiFi (無線 LAN)、WiMAX をはじめとして、さまざまな機器がインターネットに接続されて利便性を向上させている。

=写真上、説明するシュルツ氏

シンポジウムには約 100 人が

参加。3人の講師(富士通総研のマルティン・シュルツ氏、フランスの高等教育機関 Supekec を終了し、フランス最先端技術局日本代表のブリュノ・パン氏、早大理工学部卒で現在経済産業省のものづくり政策審議室長の徳益伸二氏)がそれぞれの国における IoT の現状について説明し、参加者の質問に答える形で進行した。



誌面の都合上、3人の説明の詳細は、今夏発行予定の(公財)日独協会の報告書に譲るが、就労人口が減少しつつあるわが国農業での IoT 化を見てみると、一例として「ハウス栽培」では農地に取り付けたセンサーで日射量や土壌の水分を読み取り、水や肥料の量、タイミングを計って「水やり」「施肥」の自動化が進んでいる。

IOTで便利な社会到来 対応できない人が出て社会問題に 新しい職業が必要に・・・・

IoT の発達に対する3人の見方、考え方は以下の通りである。

- ○マルティン・シュルツ氏: IoT は結局個人情報がコアとなり、人間の関係は不変である。環境が厳しくなれば、 高齢化社会では IoT が是非とも必要となる。
- ○ブリュノ・パン氏:現状での IoT は利用すれば良く、まだ数の上から充分繋がれていない状況であるが、2030年頃にはモノとモノが繋がる社会になると予測。そのような社会では、IoT にアクセス出来る人と出来ない人に分かれて大きな社会問題となり得ると考える。
- ○徳増伸二氏: IoT は経済社会では省力化につながる。日本の優位はモノづくりと AI/ロボットであり、IoT の発達によって私達の生活がいろいろな分野で便利になり、省力化が進むものの、セキュリティー対策をしっかりしないとテロの危険や個人情報の流出につながりかねない。更には、10~20 年後に 47%の人々の仕事が無くなるとのオックスフォード大学の予想もあり、新しい分野の職業の創出が必要である。

M・ルターの宗教改革から 500 年 2017.10.31.へ 日本やドイツなどでさまざまなイベント

今年はマルチン・ルター(1483-1546)の宗教改革から 500 年。ルターがローマ教会の「贖宥状」を弾劾する「95 箇条の論題」をヴィッテンベルク城教会の扉に貼り出したとされる 10 月 31 日に向けて日本やドイツ各地でさまざまな催しが展開される。



<ルター改革の本拠地ヴィッテンベルクで カウントダウン>

中央広場に設置された大きな地球儀のカウントダウンが「宗教改革世界万博のオープンまでの時を刻んでいる」と、町のホームページ(HP)にある=写真左。同時に「ルターを保護し支援したフリードリッヒ選帝侯の下で、この町はヨーロッパの精神的、文化的中核となった」と、誇らしくうたっている。

くプロテスタント教徒の作曲家・ブラームス 「ドイツ・レクィエム」 演奏へ 東京>

日本で大きなイベントを企画しているのが「R500 コンサート実行委員会」(東京港区赤坂 6-8-16-201)。実行委は「宗教改革が一般社会にどのような変化と恩恵をもたらしたか」に焦点を当てて「ドイツ・レクイエム」のコンサートを2会場で行なう予定。この曲はブラームがルターのドイツ語訳聖書から言葉を自ら選んだといわれ「宗教改革の精神を具現化している」(実行委)。指揮は東京シンフォニア音楽監督のロバート・ライカー氏。90人のオーケストラと120人の合唱団(いずれも東京音楽大学)、若いソリスト(森野美咲=東京芸大卒、ウィーン在住=他)で演奏されるもので、賛同者の支援を求めている(203-3588-0738・mari@tokyosinfonia.com)。

また、11月23日長崎市では、日本の福音ルーテル教会とカトリック司教協議会が宗教改革500年を記念して共同企画「平和を実現する人は幸い」のシンポジウムと記念礼拝を行なう。ルターの改革運動はさまざまな分裂をもたらしたが、もはや「対立から和解へ」の歩みの中にあるのだという。ドイツ・ブラウンシュバイク州教会が計画する700人合唱団へ日本から最大15人を派遣することも決まったという。

ルターの時代と業績・・・著書、ネットで探る

中世ドイツ(神聖ローマ帝国)など西欧社会に衝撃を与え たルターの業績やその歴史的、社会・文化的、政治的意義に

ついては多くの研究と著書で明らかになっている。今や"ネット社会"。以前は教科書か、専門的な書物でしか

見ることのできなかった宗教改革を巡る多くの史(資)料が閲覧できる。 **贖宥状と"集金箱"** 「罪のつぐないがすべて免じられる」と民衆に
販売したローマ教皇発行の証明書。日本では「免罪符」と訳されたこと
もあるが、正しくは「贖宥状」(Ablassbrief)。「免じられるのは罪へ
の罰。あるいは罰への償いであって罪自体が免じられるのではない」か
らだ。「金貨がチャリンと音を立てるや否や煉獄に苦しむ魂はたちまち





<贖宥状(左)と、金入れ箱>

天国に」という箱。莫大な金が教会、教皇庁に転がり込んだ。ルターは民衆を誤り導き、安易に罪を赦すやり方に激しい憤りを覚えた。1517 年 10 月 31 日、ヴィッテンベルク城教会の扉に「贖宥の効力を明らかにするための討論提題」(「95 箇条の課題」)を貼り出したという。B4 版 1 枚ほどに過ぎない紙の文書が僅か 2 週間ほどで全欧州を巻き込む騒ぎになったといわれる。

聖書のドイツ語翻訳 ルターはヴィッテンベルクへ帰る途中騎士団に襲われた。実はヴァルトブルク城に匿わ



れ、1521年5月から翌年の3月までの10ヶ月間、この城の部屋(写真左)に閉じこもり、新約聖書のドイツ語翻訳に没頭する。ラテン語、ギリシャ語の聖書を民衆の言葉に。最大の業績と言われる。このA4版に近いサイズで500頁近い聖書は初版が2~3000部。3ヶ月で再版。当時の値段は牛一頭分(約30-50万円)。ドイツ語も読める人は少なかったが、読んでもらい聴く「ことばの体験」が人びとの心に深い感動を与えた、と。このドイツ語が標準ドイツ語のもとになった。

千葉県日独協会通信 No.106 - 2017 年 4 月 8 日

グーテンベルクの印刷機

木版印刷に替わり、活版印刷が 発明(1456年)されてから 50年余 にルターの活動期がくる。大きな

都市では印刷所が設けられていた。彼の著作活動とその普及は新しい印刷技術を抜きにしては語れな



い。ルターの全著作は 3,183 点に のぼり、発行部数は 300 万冊と言 われる。ルターのメッセージを印 刷技術が支えてマスメディアの役 割を果たした。

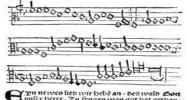
(写真はマインツ博物館に復元された グーテンベルクの活版印刷機)

賛美歌のはじめ

教会で賛美歌を始めたのはルターだという。文字が読めない民衆が歌える。宗教改革の広がりに大

五線紙にルターの名が

€ 1Eyn new lied võ de zween Metterenn Chaftizu Buffel von de Sophaften zu Louen verbrant. Mar. Luther.



wilfer betre. Zu fringen tras got hat getbansu feynein lob vin elye. Zu bruffel yn bem niobers Lano-wol burch zwen junge knaben-/Dat er feyn zounoer macht bekant bie er mit feynen gaben. Do retolieb bet greyer.

So reichlich hat getyret.

Der erft recht wol Johannen heyft fo reych an Botteo hulden. Seynn binder Denrich nach dem

きな影響を与えた。自らも「深みから私はあなたを呼ぶ」を創作した。生涯に50編ほどのコラールを作詞し、作曲したものもある。やがて、16-7世紀にドイツはコラールの優れた作詞家、作曲家を輩出したが、これらのコラールがなければバッハのオルガン曲、カンタータなどは生まれなかったとさえ言われる。そして、メンデルスゾーン、ブラームスは・・・。

参考にしたのは、「マルチン・ルター ~ことばに生きた改革者」(徳善好和 著 岩波新書)、「宗教改革とその時代」 (小泉徹著 山川出版社)、「キリスト 教とは何か」(pen BOOKS)、「ドイ ツ史 10 講」(坂井榮八郎著 岩波新書) など。また、日本福音ルーテル教会な ど日本、ドイツのさまざまなホームペ ージから引用させていただいた。

ドイツと私

深い縁で結ばれたドイツ

娘たちが嫁いだ居心地のいい国



吉川 三郎

私と私の家族は、ドイツと切っても切れない縁で結ばれている。1993年、私はエッセンの研修で先進的な技術を学んだ。その経験は今の仕事でも何かと役に立っている。その後、二人の娘が 2002 年に音楽を学ぶため留学したドイツで国際結婚したため、訪独の機会が多いからである。

ドイツ研修は、私が県や各自治体が行なう下水道事業の設計コンサルタント会社に勤務していた時だった。93年7月、私は友人とエッセン市にあるルール水組合(Ruhr verband)を訪問し、ルール川における河川汚濁対策制度について説明を受けた。この制度の考え方は、当時日本にはない画期的なもので、ルール川流域にある各工場から排出される水量と汚濁負荷量に応じた負担金を徴収し、その資金でルール川の水質保全を行うための処理場建設や維持管理費を賄うことを定めたものだった。これは、極めて合理的なドイツ人ならではの発想の制度と思った記憶がある。

娘達は 2002 年 9 月、二人そろってミュンヘンに行き同居しながら、長女はアウグスブルク音楽大学のハンマー先生に声楽を学び、次女はミュンヘン音楽・演劇大学でギッティー先生にピアノを学んだ。二人の留学中、私は家内と何度もミュンヘンに行き、ここを拠点に、市内のニュンフェンブルク宮殿やアルテピナコテーク、アウグスブルク、ウルム、フッセン(ノイシュバンシュタイン城)、ニュルンベルク、ヴュルツブルクなどを訪ね

日本とはまるで異なる 文化と歴史に触れた。

長女は卒業後すぐに オペラ歌手となり、ド イツやオーストリアの 各都市にある劇場と歌 手契約を結び活動し、 北ドイツのハノーファ



一歌劇場では約8年間活動していた。この間、私達は娘の家からツェレ、ブラウンシュバイク、ブレーメン、ハンブルク、ベルリン、リューベック、ゴスラー(ランメルスベルク鉱山)など歴史的な建造物を見学した。長女は6年前、ドイツ青年と結婚し家族は今、4人に。ライプツィヒに近いケムニッツで暮らしながら、ニュルンベルクの国立歌劇場で歌っている。

次女は卒業後もミュンヘンに住み、コンサートやピアノの先生を続けているが、昨年ミュンヘンの会社に勤めているインドネシア人(キリスト教徒)と結婚し=写真上=、今年ベビーが生まれる。音楽がアルコール、煙草とともに大好きな私にはドイツはとても居心地がよい国と感じられる。

長女の夫の両親は、私がかつて研修したエッセン市の近くのハッティン ゲンに住んでいるという奇縁に吃驚したこともあった。私が住んでいる船 橋市には第一次世界大戦のドイツ軍人捕虜の慰霊碑が建立されているこ とも何かの縁ではないかと感じている。こうした縁で家内と当協会の会員 となったが、娘達がいつの日か協会のお役に立てるのではないか、と楽し みにしている。

2017 (平成 29) 年 年次総会開催へ

5月20日(土) 船橋市中央公民館



「金谷体制」 2年目となる千葉県日独協会の年次総会・記念 講演会は5月20日(土)午後3時15分から船橋市中央公民 館=同市本町2-2-5 **2**047-434-5551 右地図参照=で 開かれる。

◇総会は、午後4時15分までの予定で、議題は次の通り。

- (1) 2016 (平成 28) 年度事業報告 (案)
- (2) 2016 (平成 28) 年度決算報告 (案)
- (3) 2017 (平成29) 年度事業計画 (案)
- (4) 2017 (平成 29) 年度収支予算 (案)
- (5) 2017 (平成29) 年度役員の件
- (6) その他

◇記念講演会は、午後4時半から5時半までの予定。

講師:成田 久枝氏(当協会会員、市川市国際交流協会会長)

演題:「市川市国際交流協会の歴史と今後」(仮題)

(Google から)

◇懇親会は、午後6時から同 8時までの予定。

場所: 「カサ・グランデ」(船橋西武デパート9階 参加費・4,500円/1人)

理事会の開催

日 時:4月15日(土)午後3時から同 5時

場 所:船橋市中央公民館(住所・電話番号は総会記事、地図参照)

議 題:総会付議議案等



新入会員紹介

(敬称、略) ◇塚原浩毅(58)=市川市曾谷



- □総会、理事会の日程、場所選定と確保、議題設定(総会案内、参照)
- □ドイツ人留学生との交流&ドイツとの交流計画を協議
- □HP (ホームページ) の活動方針などを追加・更新する
- □2020 年東京五輪のボランティア通訳を目指し通年の講習会設定へ検討中
- □協会のロゴマーク・バッジは85個販売の報告(在庫あり)。

編集後記

◇M・ルターは世界史の教科書の一頁に載っていた人でした。今回、ルターの生涯や功績、その 時代をおさらいする機会を得て、ルターがキリスト教界だけでなくその後の社会や文化に与え

た影響は計り知れない巨人だと教わりました。教皇庁は当時、「絶対的な権力機構」。金権・腐敗のローマ教皇庁に抗して一人で立ち向かうエネルギーはどこから来たのか。「自身は改革者とは思わなかった」との指摘がある。だが、法律を学びエリート街道を歩む青年が一転して修道僧として突っ走った人生の軌跡は、典型的なドイツ人らしくも感じられる。500年前の日本は室町期の戦国時代。F・ザビエルの来日を機に日本を舞台にしたカソリック VS プロテスタント、オランダ VS ポルトガルの貿易戦争もルター改革の余波とか◇世はまさに、IT・グローバル時代。日独仏の先端的な興味深い交流を金谷会長にご紹介いただいた◇新年度の4月号から「運営委員会から」を設けました。運営委で協議、決定した事項を適宜、お伝えしていきます。 (M.T.)